

令和3年度外部点検結果に基づく対応

令和3年度外部点検結果に基づく対応

01 文化活動支援事業

(商工労働部 観光文化局 文化振興課)

1. 事業概要

事業目的	福井芸術文化フォーラムを支援することで、市民がより身近に良質な文化芸術に触れる機会を創出し、本市の文化振興を図る。
事業概要	福井芸術文化フォーラムが行う「舞台芸術鑑賞事業」「市民の芸術文化企画を支援する事業」「企画・運営・舞台技術などの担い手の育成事業」「文化交流の促進事業」に対し、補助金を交付する。
令和2年度事業実績	福井芸術文化フォーラムが令和2年度に実施した事業〈主なもの〉 ・みんなで舞台にたとう！！シーズン15 アゲイン（児童生徒等の舞台発表及びパネル展示） ・Art in Education～日本の音～（市内学校に和楽器専門家を派遣） ・次世代育成音楽プロジェクト（若手音楽家を中心とした演奏プロジェクト） ・福井市文化会館閉館記念イベント「つなぐ」（パフォーマンス、日本舞踊、箏の演奏等を実施）

2. 外部点検の結果

提案内容	（市民の文化活動） ①育成の仕組みを考える必要がある。（受け皿の情報提供、アマチュアの方に対する賞金など） （推進の担い手） ②新興の団体を育てるために門戸を開いておくことも重要。 （情報） ③市が行っている市民の文化活動支援の取組をより積極的に発信して欲しい。 （生の芸術） ④子ども達が生の芸術に触れる機会は大切なので、こだわりを持って行って欲しい。
------	--

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を踏まえた具体的な取組内容	①～④につき、福井芸術・文化フォーラムと文化振興課で協議を実施した。 ①②フォーラムの事業に参加し関心を持った児童等が活動を継続できるよう、講師に関する情報提供について前向きに検討することで合意した。 また、今年度新たに、ICTを活用し、文化芸術に触れることのできる「ふくいバーチャル文化芸術祭」を開催し、入賞者に対し賞金を出すなどにより、文化事業参加者の裾野拡大と文化活動活性化のための仕組みを作った。今後も、市民が文化芸術に親しむことのできる環境を拡充していく。 ③市の文化活動支援については現在市ホームページや市政広報などで広報している。今後もICTを活用しながら、誰もが身近に文化芸術に親しみ、創作活動等に参加できるよう情報発信に取り組んでいく。 ④福井芸術・文化フォーラムでは、生の芸術に触れる機会を創出するため、コロナ禍の中でも工夫しながら取組を行っている。重要性について改めて説明し、理解を得た。
-----------------	---

4. 当初予算額

(単位：千円)

予算額	令和4年度（案）	令和3年度	増減
	文化活動支援事業 負担金、補助及び交付金 11,500	文化活動支援事業 負担金、補助及び交付金 11,500	0
	合計 11,500	合計 11,500	0

令和3年度外部点検結果に基づく対応

02 歴史の見えるまちづくり推進事業

(商工労働部 観光文化局 文化振興課)

1. 事業概要

事業目的	歴史の見えるまちづくり協会を支援し、共同して歴史的環境の整備、保全、管理を行うことで、歴史的文化活動の振興と普及啓発等を行う。				
事業概要	歴史の見えるまちづくり協会の人件費や事業費を補助するとともに、歴史講座、子ども歴史講座、歴史ボランティアガイドの配置、歴史散歩等の各種事業を委託することで、本市における住民生活の充実と豊かで潤いのある個性的なまちづくりに寄与する。				
令和 2年度 事業実績	【歴史の見えるまちづくり協会助成事業】		【歴史の見えるまちづくり普及事業】		
	助成対象		実績		
	人件費		4人分		
	事業費	伝統的行事支援	1件		
		「語り部」育成・派遣	登録67人 研修20回 派遣38件		
		歴史パンフレット発行	5,000部		
			事業名	回数	参加人数
			①歴史講座	1回	180人
			②市民歴史講座	10回	137人
			③子ども歴史講座	動画19本	
			④まちなか歴史ガイド配置	31日 (配置日数)	957人 (案内人数)
			⑤歴史散歩	4回	34人

2. 外部点検の結果

提案内容	(若者の参加) ①協会がより市民を巻き込んで事業を行うために、大学生を含む運営委員会をつくっては。 (自主財源の確保) ②理事会が市内経済界に対して寄附を募る形で財源確保ができないか。 (ガイドの人件費) ③ガイドの想いも聞いた上で、活動に見合う人件費に上げる努力が必要。検討して欲しい。 (伝統的行事支援事業) ④協会の伝統的行事支援事業の有効性について、他課事業との兼ね合いも考えて検討を。
------	--

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を踏まえた具体的な取組内容	①協会に対し、若年層の意見を事業に反映させられるような仕組みをつくれないか検討を要請した。 ②今までは、積極的に寄附を募るようなことは行ってこなかった。しかしながら、協会においても、財源確保の必要性を認識していることから、寄附を受け入れる方法を具体的に検討することで合意した。 ③現在は活動1回につき1,000円の人件費(交通費相当)を支給しており、その値上げ等について、歴史ボランティア「語り部」の会議で協議を行った。現在は「ボランティアであるため値上げは不要」の意見が多かった。しかし、値上げに賛成の意見もあったため、引き続きガイドの想いを聞き取りながら適正な人件費となるよう協議したい。 ④協会では、毎年1つの団体に50,000円の補助のみを行っていた。しかし、外部点検での指摘の通り有効性には疑問が残ることから、補助の実施方法を見直すこととした。次年度は補助事業を一旦見送り、より良い方法を検討した上で改めて実施することとした。
-----------------	---

4. 当初予算額

(単位：千円)

予算額	令和4年度(案)	令和3年度	増減
	歴史の見えるまちづくり協会助成事業 負担金、補助及び交付金 17,200	歴史の見えるまちづくり協会助成事業 負担金、補助及び交付金 17,128	72
	歴史の見えるまちづくり普及事業 委託料 1,450	歴史の見えるまちづくり普及事業 委託料 1,300	150
	合計 18,650	合計 18,428	222

令和3年度外部点検結果に基づく対応

03 美術館企画展開催事業、美術館アトリエ開催事業

(商工労働部 観光文化局 美術館)

1. 事業概要

事業目的	美術館企画展開催事業は、分野・時代・地域などの美術の多様性を活かした企画展を開催し、世代を超えて気軽に美術を楽しむことを目的としている。 美術館アトリエ開催事業は、子どもから大人までが「つくる」ことの楽しさや、面白さを体験する機会を増やし、豊かな創造性を育むことを目的としている。
事業概要	美術館企画展開催事業は、企画展を年間4本開催している。 美術館アトリエ開催事業は、しっかりつくる活動として「子どもアトリエ」「市民アトリエ」、みんなと参加する活動として「共催アトリエ」、気軽に簡単に創作できる活動として「アトリエチャレンジ」をそれぞれ開催している。
令和2年度事業実績	美術館企画展開催事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初計画していた「木梨憲武展」「ひろしま美術館名品展」「藤城清治展」の3本が中止。 (実績) 企画展「MINIATURE LIFE 展－田中達也 見立ての世界－」 令和3年2月19日～3月28日 33日間開催 入場者数が47,447人。 美術館アトリエ開催事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子どもアトリエは1講座、市民アトリエは2講座中止。共催アトリエは、例年の3分の1の開催に留まった。 (実績) ① しっかりつくる活動の「子どもアトリエ」は8講座550人、「市民アトリエ」は7講座94人 ② みんなと参加する活動の「共催アトリエ」は11回320人 ③ 気軽に簡単に創作できる活動の「アトリエチャレンジ」は14活動9,189人の参加があった。

2. 外部点検の結果

提案内容	(広報) ①多くの市民に利用してもらえるよう、大きく広く広報する必要がある。 (貸出し) ②会議室として市民に利用してもらってはどうか。 (子どもの作品) ③子どもの作品を美術館で展示してはどうか。 (新規来館向け) ④福井駅で新規来館者を取り込むための工夫をしてはどうか。 (集客) ⑤気軽に立ち寄りたくなる動画を作ってはどうか。(YouTube等) (周遊) ⑥周遊できるイベントとの連携を図って欲しい。 ⑦移動中のバスの中でワクワク感を煽る映像を流すとよい。
------	--

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を踏まえた具体的な取組内容	(広報) ①積極的にマスコミ各社へ働き掛け、少しでも大きく広報してもらうとともに、タウン誌等への広報を依頼する。また、来館者自らがSNSで発信してもらえるよう、撮影スポットを設けるなどして広く広報していく。 (貸出し) ②美術や芸術に関する団体・個人への利用促進は勿論のこと、当館の担当部局である商工労働・観光文化に関する会議や打合せ等にも積極的な利活用を図ってもらうよう働き掛けていく。 (子どもの作品) ③コロナ禍で2年連続中止となった「福井市小中学生国際交流作品展」や「福井市・吉田郡中学校美術科作品かんじて・み・よさ展」を、次年度は会期を延長するなど、より充実して開催するようにしていく。 (新規来館向け) ④新幹線開業時、福井駅に新設される本市のスペースに、当館の案内パンフレットや当館が開催する企画展のポスター・チラシなどを掲示・設置してもらえるよう検討していく。 (集客) ⑤自然あふれる当館敷地にある外構施設(高田博厚の屋外ギャラリーや福井城周辺から移設した屋外彫刻など)の魅力を知ってもらえるような動画を制作・配信していく。 (周遊) ⑥市内にある文化施設と連携を図りながらイベントを開催するほか、各施設で開催するイベント情報等を宣伝して周遊を促していく。 ⑦当館を通るフレンドリーバスや民間バスの車内に映像機器がないため、バスでのPR動画を流すことは困難であるが、当館へのワクワク感を煽るためのPR動画を制作し、SNSを活用して、多くの市民に発信していく。
-----------------	--

4. 当初予算額

(単位：千円)

	令和4年度(案)	令和3年度	増減
予算額	美術館企画展開催事業	美術館企画展開催事業	
	旅費	132	132
	食糧費	20	10
	印刷製本費	676	338
	郵便料	88	44
	広告料	2,200	1,100
	委託料	11,530	5,777
	報償費	3,030	1,891
	負担金・補助及び交付金	9,697	22,344
	合計	27,373	30,860
	アトリエ開催事業	アトリエ開催事業	
	消耗品費	1,730	1,730
	食糧費	3	3
	郵便料	10	10
	報償費	2,135	2,085
	その他の保険料	41	41
	合計	3,919	3,869

令和3年度外部点検結果に基づく対応

04 公民館運営事業（福井学推進事業）

（教育委員会事務局 生涯学習課）

1. 事業概要

事業目的	（公民館運営事業）社会教育の振興及び市民の学習機会の提供並びに地区活動を推進する。 （福井学推進事業）住民がより深く郷土について学ぶ機会を提供する。		
事業概要	（公民館運営事業）公民館の維持管理経費や運営経費、教育事業費を交付し、館ごとの特色に応じた運用を行う。 （福井学推進事業）各館の教育事業の柱の一つとして「福井学事業」を必須事業として実施する。		
令和 2年度 事業実績	（公民館運営事業）		（福井学推進事業）
	実績 区分	利用回数（回）	利用人数（人）
	教育事業	2,117	33,728
	公民館が企画する会議・研修等 ※1	1,073	15,114
	自主グループ	18,224	165,082
	公民館が他団体と共催する事業 ※2	1,385	22,098
	団体が開催する事業・会議	10,049	113,168
合 計		32,848	349,190
※1：公民館運営審議会 等 ※2：公民館が地域の団体と共催で行う事業		（ア）中央公民館の事業 ・講座回数 ：19 回 ・参加者総数：438 人 （イ）地区公民館の事業 ・47 館で実施 （2 館はコロナ影響により中止） ・参加者総数：3,863 人 （ウ）学習成果展示会 ・公民館の令和元年度の取組を パネル展示により情報発信 日時：R02.7.8～7.14 場所：市ボランティアセンター	

2. 外部点検の結果

提案内容	（青年の利用） ①若者が利用しやすいよう、「青年の日」を設けてはどうか。（月1回程度、閉館時間延長） （若者のニーズ） ②成人式の実行委員に若者向けのメニューを考えてもらってはどうか。
------	---

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を 踏まえた 具体的な 取組内容	① 公民館は平日、土曜日は21時まで開館しており、他の貸館等を行っている施設に比して大きく若者が利用しづらい環境ではない。また、公民館は公共施設であるため、貸館事業において青年のみを優遇することは難しい。 しかし、若者が利用しやすい環境づくりを行っていくことは今後の福井市にとって有用である。現在、福井市の公民館ではオンライン会議を行える環境整備を行っており、主要メンバーのみが来館し、他の参加者はオンラインで参加することが可能であるため、こうした方法をPRし、若者の利用に繋げていく。 ② 教育事業の「青年事業」や、地区の若者が集う地区成人式の参加者を対象に、若い世代が参加したくなる事業を検討するためのアンケートを実施し、若者向けメニューを検討する。
-----------------------------	---

4. 当初予算額

（単位：千円）

予算額	令和4年度（案）	令和3年度	増減
	公民館運営事業 109,084 千円	公民館運営事業 109,084 千円	
	（管理費交付金 67,478 千円 運営費交付金 18,475 千円 教育事業費交付金 23,131 千円）	（管理費交付金 68,674 千円 運営費交付金 17,279 千円 教育事業費交付金 23,131 千円）	
	合計 109,084 千円	合計 109,084 千円	0 千円

令和3年度外部点検結果に基づく対応

05 学校防災体制事業

(教育委員会事務局 保健給食課)

1. 事業概要

事業目的	すべての小中学校の児童生徒が安全教育や避難訓練等を通して、災害から身を守る対処の仕方を学び、自ら安全な行動ができる力を育成する。
事業概要	○学校安全年間計画の作成 各学校が児童生徒の安全を確保するため学校施設設備の安全管理等について具体的な実施計画を作成する。 ○学校の危機管理マニュアルの作成 各学校が学校における危機事象に対処するための要領を定める。 ○避難訓練の実施 各学校において、地震等の災害発生を想定した避難訓練を実施する。 ○津波対応避難訓練の実施 津波浸水想定区域に立地している学校が津波の発生を想定した避難訓練を実施する。
令和 2年度 事業実績	全小中学校が学校安全年間計画を4月に作成し、交通安全教室や防災訓練等を計画的に実施した。また、同様に危機管理マニュアルを作成して危険等発生時に児童生徒の生命や身体を守るための教職員の役割を再確認した。 市内全小中学校73校で地震等の災害を想定した避難訓練を実施した。さらに、県の事業を活用して防災士などを学校防災アドバイザーとして9校（足羽小、東安居小、湊小、春山小、順化小、宝永小、松本小、光陽中、明道中）に派遣して、実践的な避難訓練を実施した。 また、津波浸水想定区域に立地している4校（国見小学校、長橋小学校、国見中学校、越廼中学校）においては、津波対応訓練を行い、避難経路や避難に要する時間を確認した。

2. 外部点検の結果

提案内容	(連携) ①学校防災訓練は担当部局との連携を活かして行って欲しい。 (防災アドバイザー) ②防災アドバイザーの権限を強化し、より有効なアドバイスを行って欲しい。 ③防災アドバイザー派遣校からの報告を全校に情報共有する仕組みが必要。 (総括) ④学校防災訓練の報告を総括し検証する必要がある。 (事業費) ⑤予算の充実を。(被災地から講師を呼び、訓練の様子を撮影して振り返る等) (学校防災訓練) ⑥学校にいて災害が起きた時に、地域の人々が学校に避難してくる訓練を行うとよい。 ⑦避難訓練は繰り返しが必要なので、回数を増やして欲しい。 ⑧効果がある避難訓練を行って欲しい。(被災地の訓練ビデオ視聴後に訓練を実施する等)
------	--

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を 踏まえた 具体的な 取組内容	① 学校と消防局や危機管理課等が連携して実践的な訓練が行えるよう、調整を行う。 ②③④ 学校防災アドバイザーには、防災の専門家としての立場から派遣校の特性を踏まえて、避難訓練や安全教育について有効かつ的確なアドバイスをしていただいている。また、今年度から、派遣校の実績報告を取りまとめて検証し、市内全小中学校にその内容を周知し、全体の防災力向上を図っていく。 ⑤⑥⑦⑧ 被災地からの講師の招聘について、国の「災害伝承10年プロジェクト」(被災地の語り部(講師)を全国各地に派遣する)などを活用した訓練の実施を検討する。 また、学校が避難所となることを想定した訓練の実施など、訓練の効果を高める新たな取組については、学校現場や関係所属等の意見を聴きながら対応を検討する。
-----------------------------	---

4. 当初予算額

(単位: 千円)

予算額	令和4年度(案)	令和3年度	増減
	学校安全総合支援事業	学校安全総合支援事業	
	報償費 40	報償費 20	20
	旅費 7		7
	合計 47	合計 20	27

令和3年度外部点検結果に基づく対応

06 地域に生きる学校づくり推進事業

(教育委員会事務局 学校教育課)

1. 事業概要

事業目的	教育活動を地域に公開する中で、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの教育について考え、行動する機運を高める。
事業概要	教育活動を地域に公開する中で、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの教育について考え、行動する機運を高める。 ○地域に生きる学校づくり推進事業補助金 特色ある教育活動を展開するため、各学校の実態に応じて具体的な取組を立案し、体験活動の充実や地域の人材活用の推進、「保、幼、小、中」の交流等を実施するための費用の補助 ○教育ウィークポスター制作 教育ウィーク（学校公開週間）の実施期間周知のためのポスター制作 ○中学校サミット開催事業 各中学校の生徒代表が集まり、自校の活動の発表やテーマに基づき意見交換を行う ○道徳教育総合推進事業「親子で学ぶ道徳講座」 親子で一緒に道徳の授業を受けたり、授業を地域に移して行うなど、地域や親子のコミュニケーションを深め、道徳的価値の交流を図る。
令和2年度事業実績	○地域に生きる学校づくり推進事業補助金 【内容】学校規模や中学校区連絡会担当校などを考慮し、補助金を算定し交付 【効果】全小中学校において、特色ある活動を実施することで、学校、家庭、地域との交流を図ることができた。 ○教育ウィークポスター制作 新型コロナウイルス感染対策のため中止 ○中学生サミット開催事業 新型コロナウイルス感染対策のため中止 ○道徳教育総合推進事業「親子で学ぶ道徳講座」 新型コロナウイルス感染対策のため中止

2. 外部点検の結果

提案内容	(横の連携) ①小学校同士の横の連携による情報共有が必要である。 (情報発信) ②各学校の取組を外に向けて情報発信する必要がある。 (数値目標) ③数値目標は、事業の趣旨を考え、趣旨を生かした設定に。 (地域に向けた発信) ④学校での取組を便利な媒体を使って地域にも発信できるとよい。 (教育ウィーク) ⑤「教育ウィーク」は市民が親しみやすくなる名称や周知方法を考えてはどうか。 (道徳教育) ⑥道徳教育の実施について地域の方にも情報が入りやすくして欲しい。 ⑦道徳教育の効果を検証することも必要では。
------	---

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を踏まえた具体的な取組内容	①福井市教育委員会のグループウェアを利用し、各小中学校で学校行事の取組や災害発生時の対応などの情報共有を行う。中学校区内の小学校同士では、各校の学校通信を校内に掲示し、学校通信を通して各学校の取組を共有したり、年に数回各中学校区内で会議を行い、目指す子ども像の共有や行事等の情報交換も行ったりしている。 ②④各学校でブログ（学校・校長）を立ち上げ、授業や行事等の様子を伝えたり、お便りを家庭・地域へ発信したり、報道機関へも周知したりするなど、各学校で家庭・地域への発信を工夫している。それらの取り組みにさらにアクセスしやすくなるように市HPでの掲載方法を検討する。 ③数値目標については、活用した地域人材の数ではなく、子どもたちの学びや成長、学校側にとって効果的であったかという視点での見直しを、課内で検討していく。 ⑤名称については、保護者や地域、市民の方々に親しみをもっていただけるよう、同じような取組をしている他市町の状況も参考にしながら、課内で検討していく。 これまで、ポスター配付は各小学校2枚、各中学校1枚である。今後も、各小中学校で保護者や地域の方が目につくような場所に1枚掲示し、小学校の残りは公民館に掲示依頼をしていく。また、市役所内の掲示も検討していく。 ⑥「親子道徳」の実施前には、保護者には案内をしているが、今後、公民館にも案内を配付し、地域への周知を依頼していく。実施後は取組の様子を学校通信やHPで発信していく。 ⑦毎年、全国学力学習状況調査や福井県学力調査のアンケートの質問（児童生徒や学校を対象）には、道徳に関する内容があり、各学校ではその結果をもとに自校の取組を検証している。また、親子道徳の実施校でも、取組前後にアンケートを実施し、子どもたちの変容を確認して、今後の指導にいかしている。
-----------------	---

4. 当初予算額

(単位：千円)

予算額	令和4年度（案）	令和3年度	増減
	地域に生きる学校づくり推進事業	地域に生きる学校づくり推進事業	
	負担金、補助及び交付金 25,530	負担金、補助及び交付金 25,000	530
	印刷製本費 50	印刷製本費 50	0
	報償費 285	報償費 165	120
	消耗品費 420	消耗品費 240	180
	合計 26,285	合計 25,455	830

令和3年度外部点検結果に基づく対応

07 キャリア教育推進事業

(教育委員会事務局 学校教育課)

1. 事業概要

事業目的	子どもたちが夢や希望をもち、将来社会人として自立することができるよう、学校の教育活動全体を通して、体系的かつ、地域や企業とのつながりを重視したキャリア教育を推進する。 また、推進を通して、将来に向けての自己への気付きや社会への発見を子どもたちに促し、地域や社会に貢献できる人材を育成する。
事業概要	平成24年度より、福井市キャリア教育連絡協議会を立ち上げ、市内各種経済団体と福井市教育委員会が連携してキャリア教育の推進に取り組んでいる。 また、平成29年度より、福井市キャリア教育プログラムを実施し、キャリア教育コーディネーターが相談窓口となって、学校の教科の学習内容と地域の企業の人づくり・ものづくり等を結び付けた授業の推進を支援している。
令和2年度事業実績	・キャリア教育プログラム実施学級数 203学級 ・キャリア教育コーディネーターの活用実績 39件 ・プログラム作成数 30種 ・キャリア教育連絡協議会の開催 3回 ・職場体験学習実施学級数 0校（コロナのため中止要請）

2. 外部点検の結果

提案内容	(PTAとの連携) ①PTAと連携し保護者に協力してもらう仕組みを作るとよい。 (プログラム内容) ②プログラムは必要な分野、テーマを明確に。 (総括) ③事業の見直しを行う機会が必要である。(今年度結果の総括を) ④子どもや学校の意見を把握して反映すべき。 (事業のパワーアップ) ⑤予算を増やすなど、パワーアップして取り組んで欲しい。(報償費等) ⑥学校関係者の中での総括を行い、連絡協議会にあげて議論することも大事。 (キャリア教育コーディネーター) ⑦学校関係者もキャリア教育コーディネーター資格を持つとよい。 ⑧キャリア教育コーディネーター資格の取得に支援を行う必要がある。
------	--

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を踏まえた具体的な取組内容	①市PTA連合会の会議において、キャリア教育について改めて周知した。キャリア教育についてより知っていただくことで、連携の足掛かりを作っていきたい。 ②キャリア教育連絡協議会において、協議会参加者に新規プログラムの検討について呼びかけを行った。次年度に向けて、キャリア教育コーディネーターを中心に、プログラムの作成と準備を進めている。 ③年度末に、キャリア教育プログラムの実施学級数だけで実施状況を判断するのではなく、各プログラムの実施数やプログラムを活用している学校数、コーディネーターの学校訪問回数等を正確に把握し、年度最終のキャリア教育連絡協議会で事業の見直しを図る。 ④キャリア教育プログラム終了後の報告書に「プログラム改善に向けた意見等」という項目があり、忌憚ない御意見をいただいている。今後も継続し、プログラム改善に反映していく。 ⑤他市町の状況やキャリア教育コーディネーターの意見も参考にしながら、あり方を研究していく。 ⑥キャリア教育連絡協議会には、学校を代表して小学校と中学校の校長が参加し、御意見をいただいている。今後も継続して御参加いただく。 ⑦⑧キャリア教育コーディネーター職の周知に努め、資格取得のきっかけとなる取組を他市町の取組なども参考に検討していく。
-----------------	--

4. 当初予算額

(単位：千円)

予算額	令和4年度(案)	令和3年度	増減
	キャリア教育推進事業 報償費 16	キャリア教育推進事業 報償費 456	△440
	合計 16	合計 456	△440

※地域に生きる学校づくり推進事業と併せて実施

令和3年度外部点検結果に基づく対応

08 いきいきサポーター配置事業

(教育委員会事務局 学校教育課)

1. 事業概要

事業目的	支援を必要としている児童生徒の数は年々増加の傾向にあり、必要となる支援の内容は多様化している。一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切に支援を行っていく必要が高くなっている。 このため、福井市教育振興基本計画において、個に応じた支援体制の充実に係る取組の一つとして、発達障がいなどの傾向があり、集団での活動が苦手な児童生徒に対し、学習支援や生活指導、学校生活にかかわる諸問題の指導支援を行う「いきいきサポーター」を配置することとしている。
事業概要	発達障がいや不登校傾向にある児童生徒が抱える学校生活上の様々な問題に対応するために、いきいきサポーターを配置して指導や相談、支援を行い、すべての児童生徒が楽しく有意義な学校生活を送ることができるようにする。
令和2年度事業実績	【内容】 ・サポーター 85 人 67 校配置（1 人 2 校兼務、1 校 2 人配置等あり） 【効果】 ・個別支援を必要とする児童生徒に寄り添い、担任による一斉指導を補うことで、学習効果が高まった。 ・児童生徒の学校生活をサポートすることで、安心感を与えたり登校意欲を高めたりする効果があった。

2. 外部点検の結果

提案内容	(事業全体) ①必要不可欠な事業なので引き続きしっかり取り組んで欲しい。 (スキルアップ) ②いきいきサポーター間で情報共有し、スキルアップできる機会を増やすべき。 (サポーターの評価) ③いきいきサポーターの取組姿勢は重要。評価基準となる任用のガイドラインが必要。 (総括) ④事業の総括は5年ごとに行うべき。 (情報共有) ⑤いきいきサポーターと教員の連携、情報共有、信頼関係の構築が必要である。 (研修のための人件費) ⑥研修(1回2時間程度)のための人件費を負担することも必要。 (支援強化) ⑦進学で環境が変わる中学1年生に手厚い支援をお願いしたい。
------	---

3. 外部点検結果に基づく対応

提案を踏まえた具体的な取組内容	① 福井市教育振興基本計画に基づき、引き続き取り組んでいく。 ② 現状では、研修の機会を利用してサポーター同士の情報共有を行っている。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、直接対面による研修を復活させるなどして機会を確保する。 研修については、現状は夏休みに1回の開催としているが、今後は、例えば、学習の機会の後に実践後のフィードバック及び情報共有の機会を設けるなどの工夫を検討している。 ③ 新規採用するサポーターは、免許、資格及び経験を必須としている。継続任用については、配置校より提出される人事評価において、児童生徒の悩み相談や話し相手及び学校生活の支援を適切に行っているかを評価している。 ④ 福井市教育振興基本計画の終了時期に合わせて全体的な見直しを行う。 ⑤ 担任教諭等との連携について、直接対話することができない場合にも連絡ノートを作成して情報共有するなどの工夫を各サポーターにおいて行っている。研修実施の際、信頼関係構築に有効な方法なども共有できるようにしたい。 ⑥ 研修参加の際は勤務時間としており、研修を強化する場合にも給与を支給できるようにしていきたい。類似のケースを参考にしながら、あり方を研究していく。 ⑦ 各学校の状況は流動的だが、できるだけ人員配置の中で対応していきたい。
-----------------	---

4. 当初予算額

(単位：千円)

予算額	令和4年度(案)	令和3年度	増減
	いきいきサポーター配置事業	いきいきサポーター配置事業	
	報酬 107,813	報酬 107,813	0
	特別給 22,900	特別給 22,900	0
	通勤手当 3,327	通勤手当 3,327	0
	合計 134,040	合計 134,040	0